


平成22年

新入社員意識調査



平成22年7月

 青森銀行

ホームページ・アドレス
<http://www.a-bank.jp/>

も く じ

はじめに	1
調査要領	1
調査結果の概要	2
Q 1. 会社を選ぶ際の重視項目	3
Q 2. 会社を選ぶ際に相談した人	4
Q 3. 県内就職の理由	5
Q 4. 社会人としての不安	6
Q 5. 社会人として大切なもの	7
Q 6. 昇給・昇格の基準について	8
Q 7. 今の会社でいつまで働きたいか	9
Q 8. 『会社・仕事』と『家庭・生活』のどちらを重視するか	10
Q 9. 『ゼネラリスト』と『スペシャリスト』のどちらを目指すか	11
Q10. 上司に求めるもの	12
Q11. 理想の上司を有名人にたとえると	13
Q12. 初月給の使いみちは	14
Q13. 仕事をするにあたり、身につけたい知識・技術は	15
Q14. 自分をPRする言葉は	16
社会人となり、改めて感じることは（自由回答）	17

はじめに

景気の低迷が続く中、青森県の新規学卒者の就職状況は厳しさが続いています。今年も多くの新入社員が期待と不安を胸に、社会人としての第一歩を踏み出しました。

企業にとって新入社員は将来を担う大切な財産です。厳しい就職戦線をくぐり抜け、晴れて企業の一員となった新入社員はどのような意識を持って日常の仕事に取り組んでいるのでしょうか。

本調査は、県内新入社員の意識、考え方を調査し、その結果を取りまとめたものです。今回は3年ぶりの調査となりますが、新入社員の意識、考え方を知ること、これからの社内教育、研修等の参考にしていただければ幸いです。

最後になりますが、本調査に際しましてご協力いただきました企業の皆様、ご回答いただいた新入社員の方々に厚くお礼申し上げます。

調査要領

- 方 法 アンケート方式
- 対 象 者 県内民間企業 平成22年度新入社員 215名
- 実施時期 平成22年4月
- 回 答 者 122名 (回収率 56.7%)
- 回答者内訳

	男性		女性		合計	
	実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)	実数(人)	割合(%)
高 校 卒	9	7.4	23	18.9	32	26.2
専門学校卒	6	4.9	9	7.4	15	12.3
短 大 卒	0	0.0	6	4.9	6	4.9
大 学 卒	41	33.6	28	23.0	69	56.6
合 計	56	45.9	66	54.1	122	100.0

【本件に関する照会先】

財団法人 青森地域社会研究所

担 当： 野 里

TEL 017-777-1511

調査結果の概要

1. 就職にあたって

- 会社選びのポイントは「仕事が自分に合っている」がトップ、以下「業績が安定している」、「社会的貢献度が高い」の順となった。
- 会社を選ぶ際に相談した人は、「家族(親・兄弟)」がトップで5割近くを占めた。
- 県内就職の理由は「地元のために自分の力を発揮したい」がトップとなり、地域貢献志向が高まっている。

2. 社会人として

- 就職して不安に感じることは、「仕事についていけるか」がトップとなり、「職場の人間関係」との2項目で8割を占めた。
- 社会人として大切なものは、「責任感」がトップ、次いで「協調性」、「応用力・適応力」の順となった。
- 昇給・昇格の基準は、「能力主義と年功序列の両方が取り入れられた型」がトップ、次いで「能力・業績が重視される型」とこの2項目で9割近くを占めた。
- 今の会社では「定年まで働きたい」がトップとなり、前回調査に比べ大幅に割合が増加した。
- 「会社・仕事」よりも「家庭・生活」を重視したいとする人は、3/4を占めた。
- 全体としては「ゼネラリスト」志向が強まり、「スペシャリスト」志向を幾分上回った。

3. 上司について

- 男性上司には「指導力」と「信頼感」、女性上司には「優しさ」と「信頼感」を求めている。
- 理想の上司を有名人にたとえると、男性上司では「所ジョージ」、女性上司では「天海祐希」、「真矢みき」がトップに選ばれた。

4. 初月給の使いみちは

- 初月給の使いみちは、「家族へのプレゼント」がトップ、次いで「預金をする」、「自分の欲しいものを買う」の順となった。

5. 自分自身のことについて

- 仕事をするにあたって、ほとんどの新入社員が「専門的資格」、「営業力」、「情報処理に関する知識・技能」など何らかの知識・技術を身につけたいとしている。
- 自分をPRする言葉は、「明るい」、「楽観的」、「協調性」などの順で挙げられた。

Q1. 会社を選ぶ際の重視項目

～「仕事が自分に合っている」がトップ～

今年の新入社員が、就職する会社を選ぶにあたって重視したのは、「仕事が自分に合っている」が 30.3%でトップとなり、次いで「業績が安定している」が 26.2%、「社会的貢献度が高い」が 16.4%と続いた。前回までの調査に比べ「業績安定」、「社会的貢献度」の割合が高く、自分の適性ととともに、企業の安定性、社会的責任を重視している様子がうかがわれた。

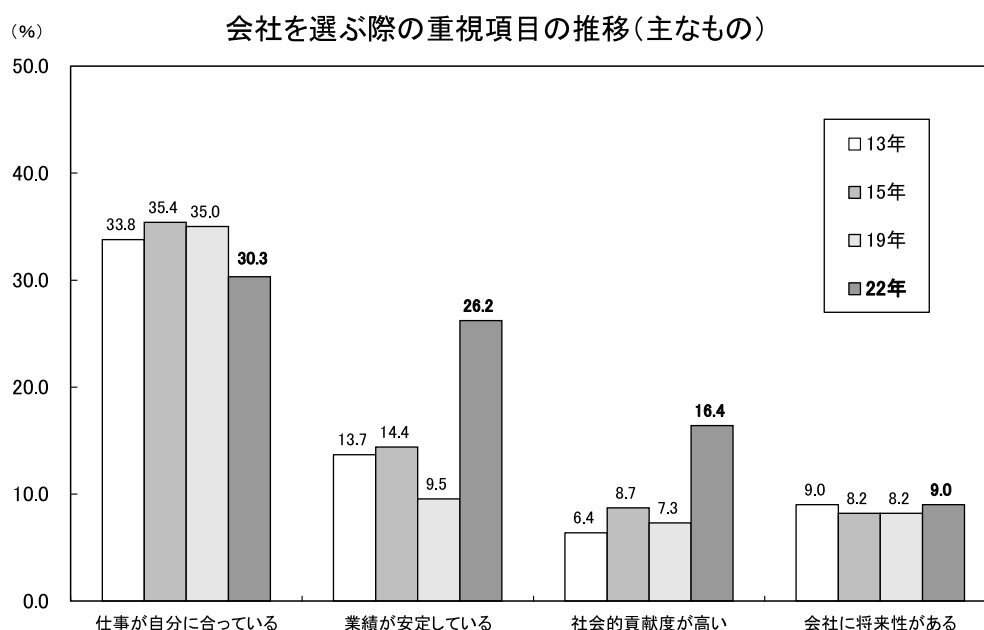
男女別にみると、男性が「業績が安定している」、女性は「仕事が自分に合っている」がトップとなった。「社会的貢献度が高い」は男女とも 3 位となった。また、男性は「会社に将来性がある」の割合が高く、企業の安定性、将来性を重視している傾向がみられた。

学卒別にみると、順位にバラツキはあるものの、上位 3 項目に回答が集中した。大学卒は「業績が安定している」の割合が他よりも高く、専門学校・短大卒では「社会的貢献度が高い」の割合が、高校卒で「会社に将来性がある」の割合が高かった。また、「給料が高い」は全体に低い割合となり、大学卒ではゼロとなった。

会社を選ぶ際の重視項目

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専・短卒	大学卒	合計
仕事が自分に合っている	② 26.8	① 33.3	① 34.4	① 28.6	② 29.0	① 30.3
業績が安定している	① 30.4	② 22.7	② 21.9	③ 19.0	① 30.4	② 26.2
社会的貢献度が高い	③ 14.3	③ 18.2	③ 12.5	② 23.8	③ 15.9	③ 16.4
会社に将来性がある	12.5	6.1	③ 12.5	9.5	7.2	9.0
通勤に便利である	5.4	7.6	6.3	9.5	5.8	6.6
有名で会社の規模も大きい	3.6	6.1	3.1	0.0	7.2	4.9
給料が高い	0.0	4.5	6.3	4.8	0.0	2.5
その他	7.1	1.5	3.1	4.8	4.3	4.1



Q2. 会社を選ぶ際に相談した人

～相談相手は「家族(親・兄弟)」がトップ～

会社を選ぶ際に相談した人は、「家族(親・兄弟)」が 48.4%と最も高かった。次いで「自分で決めた」が32.0%、「先輩・友人」が9.8%、「学校の先生」が9.0%の順となった。

男女別にみると、女性は「家族(親・兄弟)」の割合が男性より高く、6割近くを占めた。一方、男性は「先輩・友人」、「学校の先生」の割合が女性より高く、男女間でバラツキがみられた。

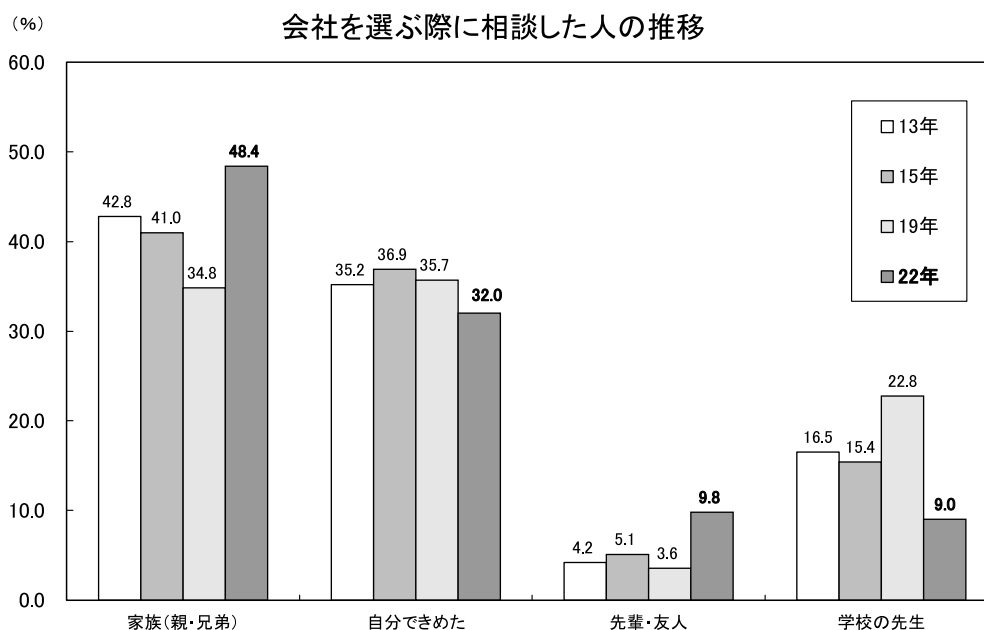
学卒別にみると、大学卒、専門学校・短大卒、高校卒とも全体と同様、トップが「家族(親・兄弟)」、2位が「自分で決めた」となった。3位は高校卒、専門学校・短大卒では「学校の先生」となり、大学卒では「先輩・友人」となった。

今回の調査では、「家族(親・兄弟)」の割合が前回調査に比べ大幅に伸び、トップとなった。一方、これまで3位を占めてきた「学校の先生」は1割を下回り4位に後退した。

会社を選ぶ際に相談した人

(単位:%)

	男性	女性	高校卒	専・短卒	大学卒	合計
家族(親・兄弟)	① 37.5	① 57.6	① 59.4	① 42.9	① 44.9	① 48.4
自分で決めた	② 32.1	② 31.8	② 21.9	② 38.1	② 34.8	② 32.0
先輩・友人	③ 16.1	③ 4.5	3.1	4.8	③ 14.5	③ 9.8
学校の先生	14.3	③ 4.5	③ 15.6	③ 9.5	5.8	9.0
親戚	0.0	1.5	0.0	4.8	0.0	0.8
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



Q3. 県内就職の理由

～「自分の力を発揮したい」、地域貢献志向が高まる～

県内就職をした理由は、「地元のために自分の力を発揮したい」が 31.7%でトップ、次いで「地元のほうが生活が楽だから」が 24.2%、「青森県が好きだから」が 20.8%の順となった。

男女別にみると、男性は「自分の力を発揮したい」が 4 割を占めトップとなった。一方、女性は「生活が楽だから」がトップとなり、男女間でバラツキがみられた。

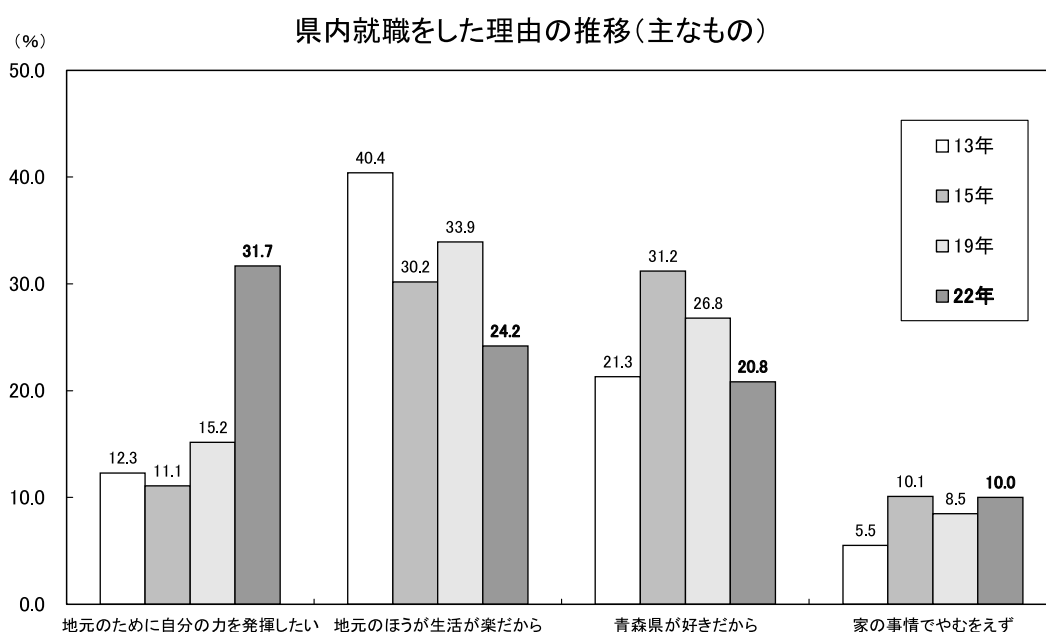
学卒別にみると、大学卒は「自分の力を発揮したい」の割合が 5 割近くを占めた。また、「青森県が好きだから」と合わせた割合が 7 割以上となり、地元への貢献・愛着志向がうかがわれた。専門学校・短大卒、高校卒は「生活が楽だから」の割合がそれぞれトップとなり生活重視志向がうかがわれたほか、「家の事情でやむを得ず」の割合も高かった。

前回調査では「地元の方が生活が楽だから」がトップを占めたが、今回調査では「地元のために自分の力を発揮したい」の割合が大幅に増加し、地域貢献型が生活重視型を上回った。また、前回調査に引き続き「ただ何となく」は最下位となり、就職に対し前向きな姿勢で取組んでいる様子が見られた。

県内就職の理由

(単位:%)

	男性	女性	高校卒	専・短卒	大学卒	合計
地元のために自分の力を発揮したい	① 40.0	② 24.6	9.7	5.0	① 49.3	① 31.7
地元のほうが生活が楽だから	③ 16.4	① 30.8	① 35.5	① 45.0	③ 13.0	② 24.2
青森県が好きだから	② 18.2	③ 23.1	② 19.4	② 15.0	② 23.2	③ 20.8
家の事情でやむを得ず	10.9	9.2	② 19.4	② 15.0	4.3	10.0
ただ何となく	7.3	6.2	9.7	10.0	4.3	6.7
その他	7.3	6.2	6.5	10.0	5.8	6.7



Q4. 社会人としての不安

～前回に比べ「職場の人間関係」への不安が増加～

社会人としてスタートを切った新入社員が抱えている不安は、「仕事について行けるかどうか」が 49.2%でトップ、次いで「職場の人間関係」が 31.1%、「休暇がきちんと取れるか」、「特に不安はない」がともに 6.6%の順となり、前回調査と同様の順位となった。これまでの調査に比べ「職場の人間関係」の割合が大幅に増加し、仕事、人間関係に対する不安は 8 割を占めた。また、「特に不安はない」と自信を持って仕事に臨む新入社員の割合は減少傾向にあり、社会人として働くことの厳しさを強く感じている様子が見られた。

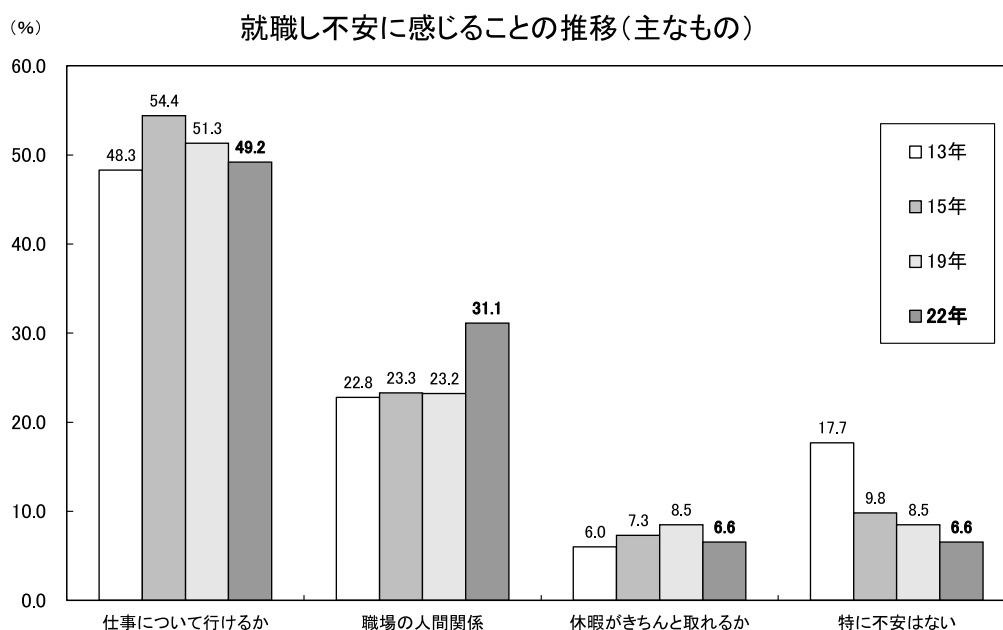
男女別では、男性が「仕事について行けるか」がトップとなり、女性は「仕事に・・・」と「職場の人間関係」がほぼ同じ割合となり、男女間でバラツキがみられた。

学卒別にみると、大学卒、高校卒では「仕事についていけるか」がトップとなり、専門学校・短大卒では「職場の人間関係」がトップとなった。また、大学卒では「職場の人間関係」の割合が他に比べて低かった。

就職し不安に感じる事

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専・短卒	大学卒	合計
仕事について行けるか	① 57.1	② 42.4	① 46.9	② 28.6	① 56.5	① 49.2
職場の人間関係	② 16.1	① 43.9	② 31.3	① 57.1	② 23.2	② 31.1
休暇がきちんと取れるか	7.1	③ 6.1	6.3	③ 9.5	5.8	③ 6.6
特に不安はない	③ 10.7	3.0	③ 9.4	0.0	③ 7.2	③ 6.6
希望の仕事が任されるか	7.1	3.0	6.3	4.8	4.3	4.9
その他	1.8	1.5	0.0	0.0	2.9	1.6



Q5. 社会人として大切なもの（2項目選択）

～「責任感」が最も大切～

社会人として大切だと思うことは、「責任感」がトップで 60.3%、次いで「協調性」が 40.5%、「応用力・適応力」が 25.6%、の順となった。

男女別でみると、女性は「辛抱強さ」の割合が「応用力・適応力」を幾分上回り、3位となった。

学卒別にみると、大学卒、専門学校・短大卒、高校卒とも全体と同様、トップが「責任感」、2位が「協調性」となった。3位は大学卒では「応用力・適応力」、専門学校・短大卒では「辛抱強さ」、高校卒では「応用力・適応力」、「辛抱強さ」が同率で並んだ。また、大学卒では「自己啓発」、高校卒では「健康」の割合が高く、学卒別に微妙な違いがみられた。

前回調査と比較すると、前回 5 位であった「協調性」の割合が大幅に増加し、人間関係を重視している様子がうかがわれた。また、これまでの調査同様、「責任感」は社会人にとって最も大切なものとして連続してトップを占めている。

社会人として大切なもの

(単位: %)

	男性		女性		高校卒	専・短卒	大学卒	合計				
責任感	①	60.0	①	60.6	①	59.4	①	66.7	①	58.8	①	60.3
協調性	②	36.4	②	43.9	②	40.6	②	42.9	②	39.7	②	40.5
応用力・適応力	③	30.9		21.2	③	28.1		14.3	③	27.9	③	25.6
辛抱強さ		18.2	③	24.2	③	28.1	③	28.6		16.2		21.5
自己啓発・向上意欲		18.2		19.7		9.4		9.5		26.5		19.0
自発性		14.5		6.1		3.1		9.5		13.2		9.9
健康		7.3		10.6		15.6		9.5		5.9		9.1
その他		3.6		0.0		3.1		0.0		1.5		1.7

13年	15年	19年	22年
責任感 ① 65.5	責任感 ① 58.3	責任感 ① 57.1	責任感 ① 60.3
応用力 ② 27.2	自己啓発 ② 28.4	応用力 ② 32.6	協調性 ② 40.5
協調性 ③ 26.4	応用力 ③ 27.8	自己啓発 ③ 26.8	応用力 ③ 25.6
健康 ④ 22.1	健康 ④ 27.3	辛抱強さ ④ 23.2	辛抱強さ ④ 21.5
辛抱強さ ⑤ 18.7	辛抱強さ ⑤ 20.6	協調性 ⑤ 19.6	自己啓発 ⑤ 19.0
自己啓発 ⑥ 17.9	協調性 ⑥ 19.1	健康 ⑥ 17.0	自発性 ⑥ 9.9
自発性 ⑦ 6.8	自発性 ⑦ 7.7	自発性 ⑦ 5.8	健康 ⑦ 9.1
その他 ⑧ 1.7	その他 ⑧ 1.6	その他 ⑧ 0.9	その他 ⑧ 1.7

Q6. 昇給・昇格の基準について

～「能力・業績を反映」が9割近くを占める～

新入社員が望んでいる昇給・昇格の基準は、「能力主義と年功序列の両方が取り入れられた型」が54.5%でトップ、次いで「能力・業績が重視される型」が33.1%、「昇給・昇格には関心がない」が7.4%、「年齢とともに昇給・昇格する型」が5.0%の順となり、能力・業績を昇給・昇格に反映して欲しいとの回答は併せて9割近くを占めた。

男女別にみると、1、2位は全体と同様の順位となったが、「能力・業績が重視される型」の割合は女性が幾分か高かった。

学卒別にみると、大学卒は「両方が取り入れられた型」の割合が7割近くを占めトップとなったが、専門学校・短大卒、高校卒では「能力・業績が重視される型」がトップとなった。一方、専門学校・短大卒では「昇給・昇格には関心がない」の割合が他に比べ高い割合となった。

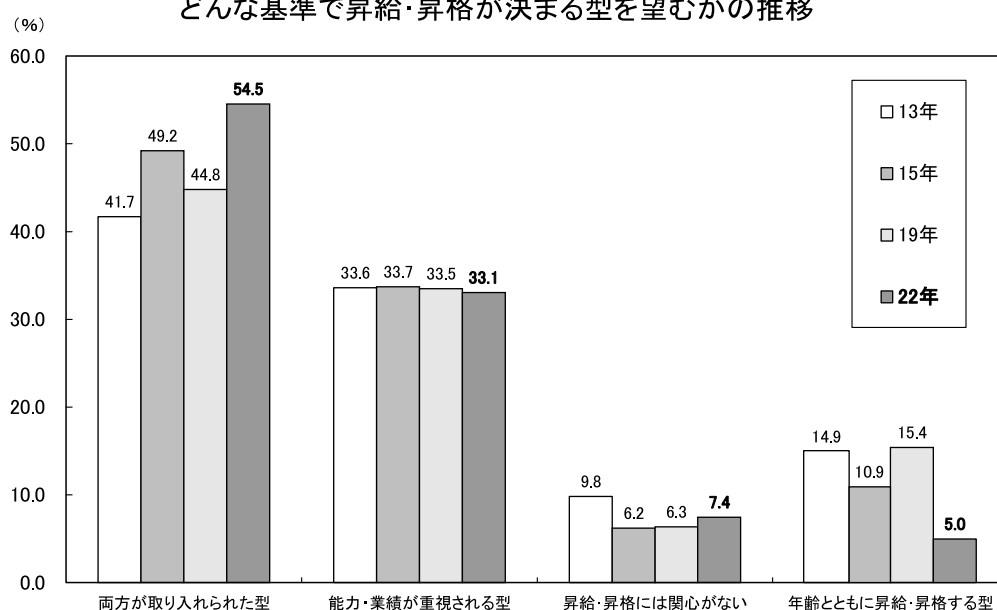
前回調査との比較では、年功序列型が減少した一方、年齢と能力・業績の両方を反映して欲しいという型が増加した。

どんな基準で昇給・昇格が決まる型を望むか

(単位:%)

	男性		女性		高校卒		専・短卒		大学卒		合計	
両方が取り入れられた型	①	54.5	①	54.5	②	40.6	②	33.3	①	67.6	①	54.5
能力・業績が重視される型	②	30.9	②	34.8	①	46.9	①	42.9	②	23.5	②	33.1
昇給・昇格には関心がない		5.5		9.1		9.4		19.0		2.9		7.4
年齢とともに昇給・昇格する型		9.1		1.5		3.1		4.8		5.9		5.0

どんな基準で昇給・昇格が決まる型を望むかの推移



Q7. 今の会社でいつまで働きたいか

～「定年まで働きたい」が大幅に増加～

今の会社への定着度については、「定年まで働きたい」が 48.4%でトップ、次いで「とりあえず今の会社で働く」が 33.6%、「技術や資金ができれば独立したい」が 8.2%の順となった。

男女別にみると、男性、女性とも全体と同じ順位となったが、「定年まで働きたい」の割合は男性が高く、「技術や資金ができれば独立したい」は女性が高かった。また、前回調査に比べ女性は「結婚・出産を機に辞めたい」とする割合が 18.2%と大幅に減少した。

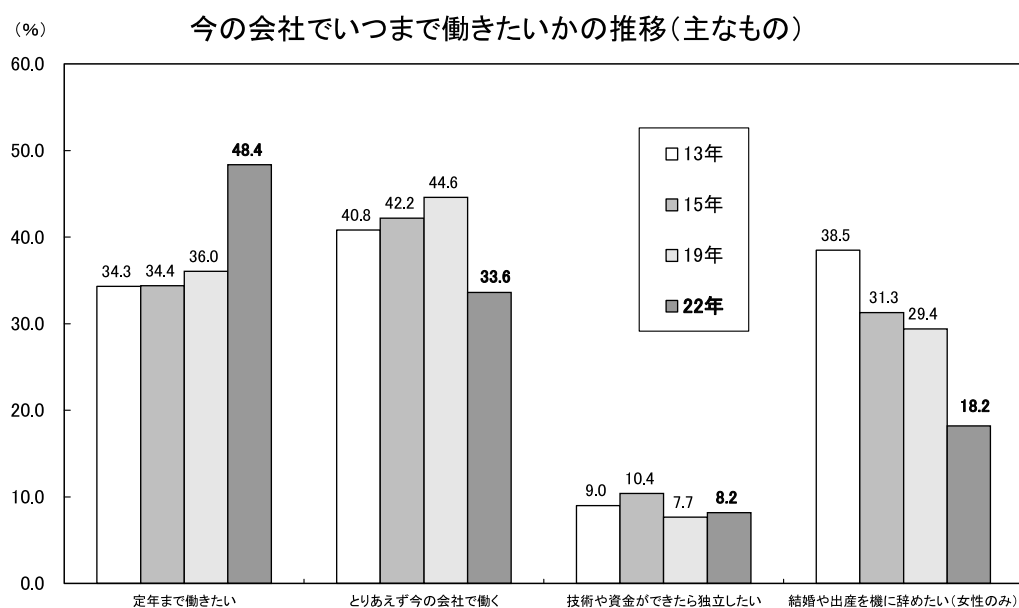
学卒別にみると、大学卒は「定年まで働きたい」の割合が 5 割を超え、他に比べて高く、「結婚・出産を機に辞めたい」とする割合は他に比べて低かった。また、高校卒では「技術や資金ができれば独立したい」の割合が他に比べて高かった。

雇用情勢の厳しさを反映し、前回調査に比べ「とりあえず今の会社で働く」や「結婚・出産を機に辞めたい」とする割合が大幅に減少する一方、「定年まで働きたい」とする割合は大幅に増加した。

今の会社でいつまで働きたいか

(単位:%)

	男性	女性	高校卒	専・短卒	大学卒	合計
定年まで働きたい	① 62.5	① 36.4	① 46.9	① 38.1	① 52.2	① 48.4
とりあえず今の会社で働く	② 32.1	② 34.8	② 25.0	① 38.1	② 36.2	② 33.6
技術や資金ができれば独立したい	③ 5.4	③ 10.6	12.5	4.8	③ 7.2	③ 8.2
結婚したら辞めたい	0.0	③ 10.6	③ 15.6	② 9.5	0.0	5.7
子供ができれば辞めたい	0.0	7.6	0.0	② 9.5	4.3	4.1
参考:結婚や出産を機に辞めたい(女性のみ)		18.2	21.7	26.7	10.7	18.2



Q8. 「会社・仕事」と「家庭・生活」のどちらを重視するか

～8割近くが「家庭・生活」を重視～

目指す社員像は、「会社・仕事重視型」か「家庭・生活重視型」かを尋ねたところ、「やや家庭・生活を重視」が50.0%でトップ、次いで「家庭・生活を重視」が24.6%、「やや会社・仕事を重視」が21.3%、「会社・仕事を重視」が4.1%となった。「家庭・生活」を重視するタイプが依然として全体の8割近くを占めており、ライフスタイルが会社中心よりは生活中心となっていることがうかがわれる。ただ、前回調査と比べると「家庭・生活」を重視する割合は幾分減少した一方、「会社・仕事」を重視する割合は幾分増加した。

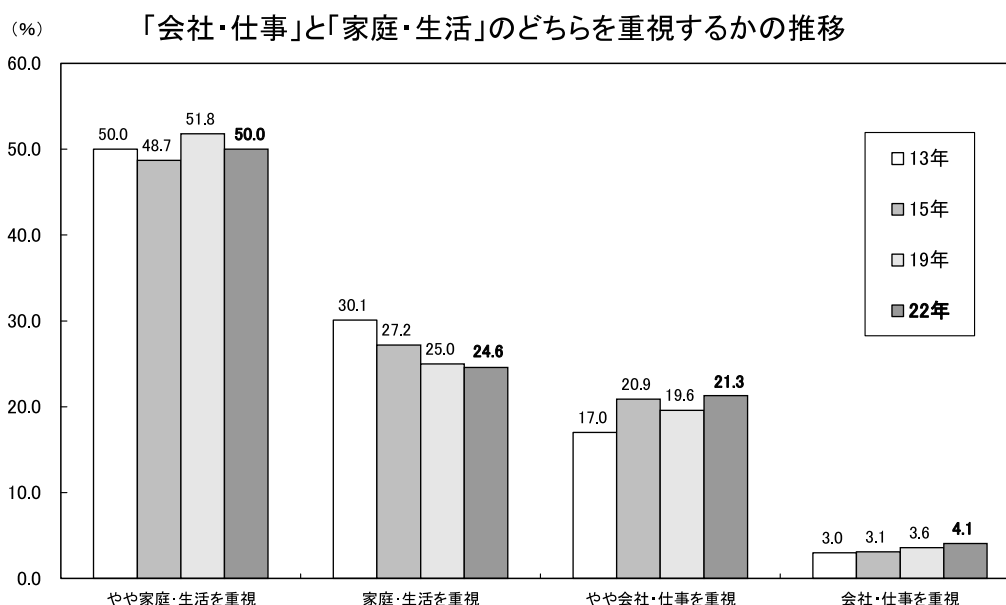
男女別にみると、女性は「やや会社・仕事を重視」の割合が「家庭・生活を重視」を上回り、男性のほうが女性よりも「家庭・生活重視型」の割合が高かった。

学卒別にみると、高校卒では「やや会社・仕事を重視」の割合が、専門学校・短大卒では「家庭・生活を重視」の割合が他に比べて幾分高かった。

「会社・仕事」と「家庭・生活」のどちらを重視するか

(単位:%)

	男性	女性	高校卒	専・短卒	大学卒	合計
やや家庭・生活を重視	① 48.2	① 51.5	① 50.0	① 38.1	① 53.6	① 50.0
家庭・生活を重視	② 28.6	21.2	② 34.4	23.8	20.3	② 24.6
やや会社・仕事を重視	17.9	② 24.2	9.4	② 33.3	② 23.2	21.3
会社・仕事を重視	5.4	3.0	6.3	4.8	2.9	4.1



Q9. 「ゼネラリスト」と「スペシャリスト」のどちらを目指すか

～全体に「ゼネラリスト」志向が強まる～

将来、職場で目指すのは、幅広い業務をこなす「ゼネラリスト」か、あるいは専門分野に秀でた「スペシャリスト」かを尋ねたところ、「どちらかというとスペシャリスト」がトップで29.5%、以下「ゼネラリスト」が27.9%「どちらかというtoゼネラリスト」が26.2%、「スペシャリスト」が16.4%の順となった。ゼネラリスト、スペシャリスト別の合計では、ゼネラリストが54.1%、スペシャリストが45.9%となった。り、前回調査に比べ、「ゼネラリスト」の割合が大幅に増加する一方、「スペシャリスト」が減少し、全体にゼネラリスト志向が強まった。

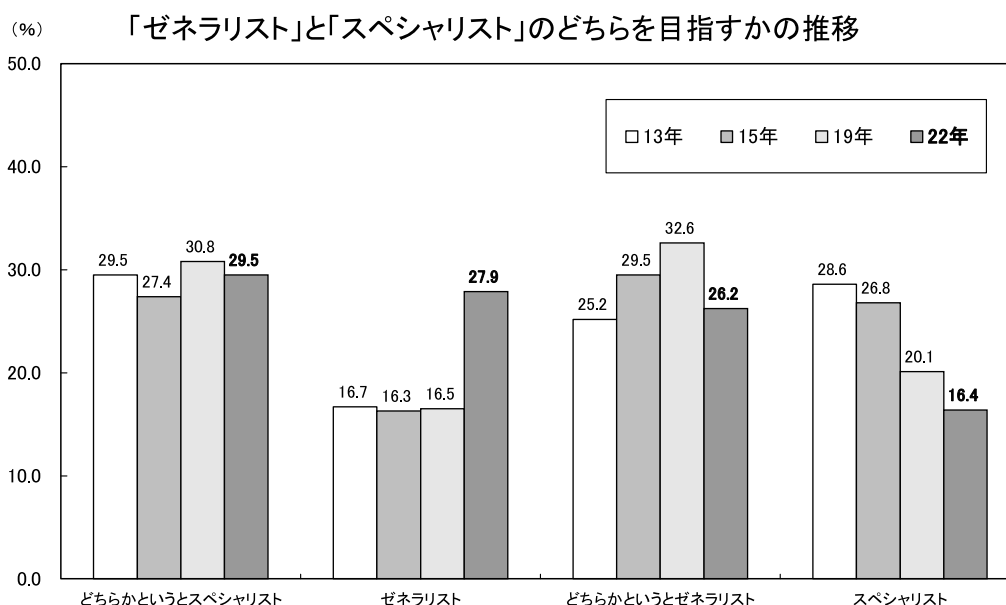
男女別にみると、女性は「どちらかというtoゼネラリスト」が31.8%と最も多く、ゼネラリスト志向が強かった。一方、男性は「ゼネラリスト」の割合が30.4%と最も多かったが、ゼネラリスト、スペシャリスト志向はともに5割となった。

学卒別にみると、順位にバラツキがみられるものの、全体としてはゼネラリスト志向がスペシャリスト志向を上回っている。

「ゼネラリスト」と「スペシャリスト」のどちらを目指すか

(単位: %)

	男性	女性	高校卒	専・短卒	大学卒	合計
どちらかというtoスペシャリスト	② 28.6	② 30.3	12.5	② 28.6	① 37.7	① 29.5
ゼネラリスト	① 30.4	25.8	② 25.0	① 38.1	② 26.1	② 27.9
どちらかというtoゼネラリスト	19.6	① 31.8	① 37.5	14.3	24.6	26.2
スペシャリスト	21.4	12.1	② 25.0	19.0	11.6	16.4



Q10. 上司に求めるもの

～男性上司には「指導力」と「信頼感」、
女性上司には「優しさ」と「信頼感」～

職場で最も身近に接することの多い上司に対して、新入社員が求めているものを尋ねてみた。それによると、男性社員が男性上司に求めているものは「指導力」が 48.2%でトップ、次いで「信頼感」が 26.8%、「決断力」が 8.9%の順となった。また女性上司に求めているものは「優しさ」が 32.1%、「信頼感」が 19.6%、「包容力」が 16.1%の順となった。

一方、女性社員が男性上司に求めているものは「指導力」が 34.8%でトップ、次いで「信頼感」が 18.2%、「行動力」が 18.2%の順となった。また女性上司に求めているものは「信頼感」が 31.8%、「優しさ」が 25.8%、「包容力」が 12.1%の順となった。

男女とも男性上司には「指導力」、「信頼感」といった頼りがいのあるイメージのほか、「行動力」、「決断力」といった力強さを求めている。一方、女性上司には、「優しさ」、「信頼感」のほか、「包容力」、「指導力」、「明るさ」を求めている。

男性新入社員が上司に求めるもの (単位: %)

男性上司には						女性上司には					
15年		19年		22年		15年		19年		22年	
信頼感	41.1	指導力	43.5	指導力	48.2	優しさ	29.6	優しさ	32.6	優しさ	32.1
指導力	34.8	信頼感	35.5	信頼感	26.8	明るさ	22.2	明るさ	20.0	信頼感	19.6
行動力	8.9	決断力	8.0	決断力	8.9	包容力	16.7	知性	13.3	包容力	16.1
包容力	4.5	行動力	3.6	行動力	5.4	信頼感	13.0	包容力	11.1	明るさ	10.7
決断力	4.5	厳しさ	2.9	厳しさ	3.6	指導力	6.5	信頼感	9.6	知性	8.9
明るさ	3.6	優しさ	2.9	明るさ	3.6	知性	6.5	指導力	8.9	指導力	7.1
優しさ	2.7	包容力	1.4	優しさ	1.8	行動力	2.8	行動力	3.0	行動力	5.4
厳しさ	0.0	明るさ	0.7	その他	1.8	厳しさ	1.9	決断力	0.7	決断力	0.0
知性	0.0	知性	0.7	包容力	0.0	決断力	0.9	厳しさ	0.7	厳しさ	0.0
その他	0.0	その他	0.7	知性	0.0	その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0

女性新入社員が上司に求めるもの (単位: %)

男性上司には						女性上司には					
15年		19年		22年		15年		19年		22年	
信頼感	33.8	指導力	31.4	指導力	34.8	信頼感	31.3	信頼感	36.5	信頼感	31.8
指導力	22.5	信頼感	27.9	信頼感	18.2	優しさ	27.5	優しさ	28.2	優しさ	25.8
決断力	13.8	決断力	14.0	行動力	18.2	指導力	16.3	指導力	12.9	包容力	12.1
包容力	12.5	行動力	9.3	包容力	13.6	明るさ	10.0	包容力	8.2	指導力	10.6
行動力	10.0	包容力	8.1	決断力	10.6	知性	6.3	行動力	3.5	決断力	6.1
優しさ	2.5	優しさ	3.5	優しさ	1.5	包容力	5.0	厳しさ	3.5	行動力	4.5
明るさ	2.5	明るさ	3.5	明るさ	1.5	行動力	3.8	知性	3.5	明るさ	4.5
知性	2.5	厳しさ	1.2	知性	1.5	決断力	0.0	明るさ	2.4	知性	4.5
厳しさ	0.0	知性	1.2	厳しさ	0.0	厳しさ	0.0	決断力	1.2	厳しさ	0.0
その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0	その他	0.0

Q11. 理想の上司を有名人にたとえると

～男性では「所ジョージ」、女性では「天海祐希」、「真矢みき」～

新入社員が考える理想の上司を有名人にたとえると、男性上司ではバラエティ番組などの司会者「所ジョージ」がトップとなった。次いで俳優の「阿部寛」、「佐藤浩一」、「唐沢寿明」、元楽天球団監督の「野村克也」の4人が同率で2位、映画監督などマルチタレントの「ビートたけし(北野武)」、読売ジャイアンツ監督の「原辰徳」の2名が同率で3位となり、4位には「舘ひろし」がランクインした。「所ジョージ」は前回、前々回調査に引き続き3回連続でトップとなり根強い人気が続いていることをうかがわせた。

一方、女性上司では女優の「天海祐希」、「真矢みき」が同率でトップとなった。次いで女優の「黒木瞳」が2位、同じく女優の「篠原涼子」が3位となり、歌手・司会者の「和田アキ子」、女優の「松島菜々子」が同率で4位にランクインした。今回1位の2名はいずれも元宝塚歌劇団男役のトップスターであり、優しさと凛々しさを兼ね備えたイメージに共通するものがある。「黒木瞳」は前回調査から1ランク順位を下げたものの、根強い人気がある。

ランクインした顔ぶれをみると、男性上司、女性上司ともバラエティ番組の司会や映画・ドラマで上司の役柄でよく見かける顔ぶれとなり、メディアの影響が大きいことをうかがわせた。今回調査で名前が挙げられた有名人は、テレビ、雑誌等で日常見かける芸能人、スポーツ関係者出などがほとんどであり、「リンカーン」、「マザーテレサ」、「ビル・ゲイツ」など外国人を挙げる人もあった。また、政治家は前回調査に引き続き、下位に数名の名前が挙げられるにとどまった。

理想の上司を有名人にたとえると

	男性上司には			女性上司には		
	15年	19年	22年	15年	19年	22年
1	所ジョージ	所ジョージ	所ジョージ	黒木瞳	黒木瞳	天海祐希 真矢みき
2	ビートたけし	島田紳助	阿部寛 佐藤浩一 唐沢寿明 野村克也	松嶋菜々子	篠原涼子	黒木瞳
3	竹中直人	星野仙一	ビートたけし 原辰徳	江角マキコ	和田アキ子	篠原涼子
4	明石家さんま	舘ひろし ビートたけし	舘ひろし	和田アキコ	久本雅美 細木数子 松嶋菜々子	和田アキ子 松嶋菜々子

Q12. 初月給の使いみちは（複数回答：いくつでも）

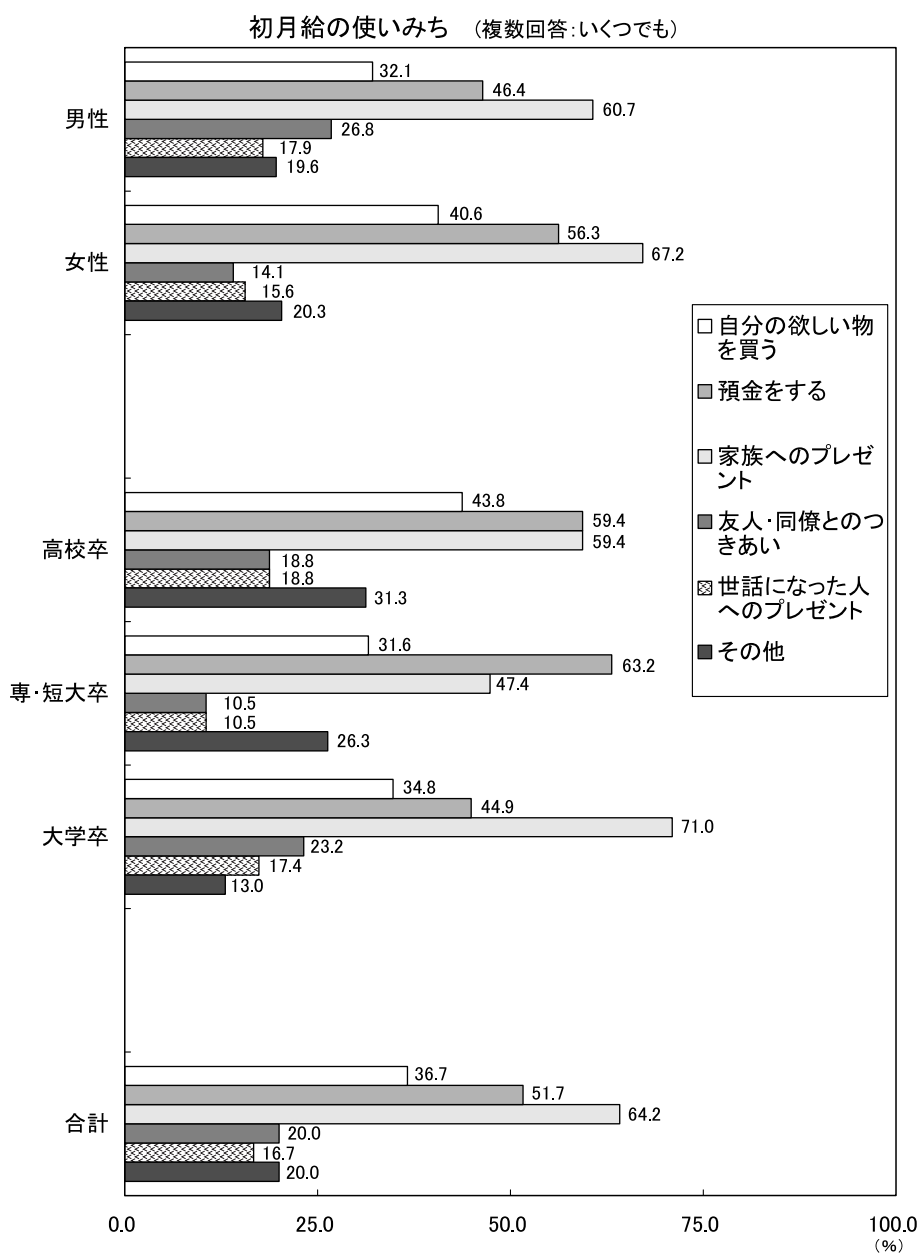
～家族への気配り・感謝とともに堅実な計画性～

初月給をもらったなら何に使うかを尋ねたところ、「家族へのプレゼント」が64.2%でトップとなった。次いで「預金をする」が51.7%、「自分の欲しいものを買う」が36.7%、「友人・同僚とのつきあい」が20.0%、「世話になった人へのプレゼント」が16.7%の順となった。

男女別で見ると、上位3項目の順位は全体と変わりはないが、女性のほうが3項目とも選択割合が高かった。

学卒別にみると、全体と同じ3項目にそれぞれ回答が集中したが、順位は幾分バラツキがみられた。大学卒では「家族へのプレゼント」の割合が7割を超え、他に比べて高かった。専門学校・短大卒は「預金をする」の割合が6割を超えトップとなり、高校卒は「預金をする」、「家族へのプレゼント」が同率でトップとなり、「自分の欲しいものを買う」は他に比べて高い割合となった。

初月給の使いみちに関しては、各階層とも家族への気配り・感謝の気持ちとともに、これからの生活設計への堅実な計画性などしっかりした一面もうかがわれた。



Q13. 仕事をするにあたり、身につけたい知識・技術は(2項目選択)

～新入社員のほとんどが知識・技術習得に意欲～

新入社員が仕事をするにあたり、身につけたいと考えている知識・技術は「専門的資格」が39.7%でトップ、次いで「営業力」が33.9%、「情報処理に関する知識・技能」が31.4%、「語学力」が28.9%、「経理・財務に関する知識・技能」が28.9%などの順となった。一方、「特に身に付けたいものはない」は1.7%にとどまっており、ほとんどの新入社員が何らかの知識・技術を習得したいという意欲がうかがわれる。

男女別にみると、男性は「営業力」、「専門的資格」を重視しているのに対し、女性は「専門的知識」、「語学力」、「情報処理に関する知識・技能」、「経理・財務に関する知識・技能」といった幅広い項目に亘っており、男女間で微妙な違いがみられた。学卒別にみると、大学卒では「専門的資格」、「営業力」、専門学校・短大卒、高校卒では「語学力」を重視する割合が他に比べて高かった。

次に、その知識・技術を身につけるために何をやっているか尋ねたところ、「特に何もしていない」が42.5%、次いで、「独学で専門誌など購読」が40.6%、「通信講座の受講」が11.3%などと続いた。

男女別でみると、男性は「独学で専門誌など」の割合が高かったが、「通信講座」、「社外セミナー」といった積極的な取組みは女性の方が高かった。学卒別でみると、高校卒、専門学校・短大卒では約4割、大学卒では約6割が何らかの形で知識・技術の習得に努めており、前回調査（高校卒2割、専門学校・短大卒3割、大学卒5割）に比べ自己啓発に積極的な姿勢がうかがわれた。

仕事をするにあたり、身につけたい知識・技術

(単位: %)

	男性		女性		高校卒	専・短卒	大学卒	合計
専門的資格	② 42.9	① 36.9	② 31.3	③ 30.0	① 46.4	① 39.7		
営業力	① 46.4	③ 23.1	③ 25.0	② 15.0	② 43.5	② 33.9		
情報処理に関する知識・技能	③ 26.8	③ 35.4	② 31.3	② 35.0	30.4	③ 31.4		
語学力	19.6	① 36.9	① 43.8	① 40.0	18.8	28.9		
経理・財務に関する知識	23.2	33.8	③ 25.0	15.0	③ 34.8	28.9		
法律に関する知識	12.5	13.8	6.3	15.0	15.9	13.2		
高度な工学系知識・技術	16.1	3.1	12.5	20.0	4.3	9.1		
特に身に付けたいものはない	1.8	1.5	3.1	5.0	0.0	1.7		
その他	0.0	1.5	3.1	0.0	0.0	0.8		

その知識・技術を身につけるためにやっていることは

(単位: %)

	男性		女性		高校卒	専・短卒	大学卒	合計
特に何もしていない	② 39.2	① 45.5	① 50.0	① 50.0	② 37.5	① 42.5		
独学で専門誌など購読	① 51.0	② 30.9	② 30.8	② 37.5	① 45.3	② 40.6		
通信講座の受講	③ 5.9	③ 16.4	3.8	③ 6.3	③ 15.6	③ 11.3		
社外セミナーなどへの参加	2.0	3.6	③ 7.7	0.0	1.6	2.8		
専門学校への通学	0.0	1.8	3.8	0.0	0.0	0.9		
その他	2.0	1.8	3.8	③ 6.3	0.0	1.9		

Q14. 自分をPRする言葉は

～「明るい」、「楽観的」、「協調性」など～

新入社員が自分をPRする言葉は「明るい」と「楽観的」がともに17.2%でトップ、次いで「協調性」が16.4%、「まじめ」が15.6%などの順となった。これまでの調査同様、今年の新入社員も「明るく楽天的な人物である」との自己PRが多かったが、今回調査では全体に「協調性」を強調する割合が多かった。

男女別にみても上記4項目に回答が集中したが、男性は「楽観的」と「まじめ」が同率でトップとなった。一方、女性は「明るい」がトップとなったほか、「努力家」の割合も高かった。

学卒別でみると、大学生は「楽観的」、「協調性」、「まじめ」の割合が高かった。専門学校・短大卒は「明るい」がトップとなり、「楽観的」、「まじめ」の割合が高かった。高校卒は「明るい」のほか「体力」の割合が高く、若さをアピールするなど、学卒別にバラツキがみられた。

自分をPRする言葉

(単位:%)

	男性		女性		高校卒		専・短卒		大学卒		合計	
明るい	②	14.3	①	19.7	①	21.9	①	23.8	③	13.0	①	17.2
楽観的	①	16.1	②	18.2		12.5	②	19.0	①	18.8	①	17.2
協調性	②	14.3	②	18.2	③	15.6		9.5	①	18.8	②	16.4
まじめ	①	16.1	③	15.2		12.5	③	14.3	②	17.4	③	15.6
努力家		7.1		12.1		12.5		9.5		8.7		9.8
適応力	③	8.9		7.6		3.1		9.5		10.1		8.2
体力		7.1		6.1	②	18.8		9.5		0.0		6.6
忍耐力	③	8.9		3.0		3.1		4.8		7.2		5.7
誠実		7.1		0.0		0.0		0.0		5.8		3.3

15年男性		19年男性		22年男性		15年女性		19年女性		22年女性	
明るい	22.3	まじめ	20.3	楽観的	16.1	明るい	23.8	明るい	27.9	明るい	19.7
忍耐力	17.0	明るい	15.2	まじめ	16.1	忍耐力	18.8	まじめ	17.4	楽観的	18.2
楽観的	15.2	楽観的	12.3	明るい	14.3	楽観的	16.3	楽観的	16.3	協調性	18.2
誠実	11.6	忍耐力	11.6	協調性	14.3	まじめ	12.5	忍耐力	10.5	まじめ	15.2
まじめ	8.9	努力家	11.6	適応力	8.9	努力家	10.0	努力家	10.5	努力家	12.1
体力	8.0	誠実	8.7	忍耐力	8.9	体力	7.5	誠実	8.1	適応力	7.6
努力家	7.1	体力	8.7	努力家	7.1	協調性	5.0	適応力	5.8	体力	6.1
適応力	5.4	協調性	6.5	体力	7.1	誠実	3.8	協調性	3.5	忍耐力	3.0
協調性	4.5	適応力	5.1	誠実	7.1	適応力	2.5	体力	0.0	誠実	0.0

社会人となり、改めて感じることは

最後に、「社会人となり、改めて感じていること」を自由に記述していただいた。今回も社会人としての責任感に関する記述が多かったが、新入社員の本音が聞こえてきそうで大変興味深いものが多かった。学生と社会人との環境の大きな違いに戸惑いながらも決意を新たにしている様子が見えてきた。

- いろいろな意味で自由になるが、同時に大きな責任を負うことになった。
(大学卒、男性)
- 自分が失敗すれば周りに迷惑をかけてしまうなど、学生時代とは責任感が違うと感じている。
(高校卒、男性)
- 会社の名前を背負っているので、行動、言動には責任を持たなければいけない。
(高校卒、女性)
- 文句をいわれないように頑張るという後ろ向きの姿勢から、前向きに社会生活に取り組んでいきたい。
(大学卒、女性)

人間関係、生活の変化に関する記述も多かった。これまでの対等な仲間づきあいから組織の上下関係、あるいは自由な生活から仕事中心の生活への変化に戸惑っている記述が多かった。

- 上司、先輩との人間関係、協調性が大切だと感じている。(高校卒、男性)
- 社会のマナーなどをしっかり身につけていかなければ。(専門学校卒、女性)
- コミュニケーションと同時に体調管理も気をつけないと、周囲に迷惑がかかることを実感した。(短大卒、女性)
- 上下関係が大事であり、言葉遣いは学校と違って厳しい！(高校卒、男性)
- 人間関係、仕事での不安が大きかったが、上司や先輩方のバックアップが思った以上にあり、とても心強く感じている。(大学卒、女性)

ただ、一方では環境の変化に悩みながらも、新入社員らしい初々しきで立ち向かっていこうとする姿勢が見えてくる記述も多かった。

- 覚えることが多く忙しいが、毎日が充実している。(大学卒、男性)
- 仕事に徹すると同時に、プライベートな時間も充実させることも重要だ。
(大学卒、男性)
- 興味があること以外でも、常にアンテナを張り、幅広い目を持つことが大切だと思う。(大学卒、女性)
- 緊張や不安はあるが、青森のために一生懸命働きたい。(高校卒、女性)
- 社会人として最低限の責任は果たしていきたい。(高校卒、男性)

そのほか、我々先輩社員に考えさせるような、悩みや助けを求めているような記述もあった。

- 自分の給料だけで、生活していかなければならない。気を引き締めていかなければ大変だ。 (大学卒、男性)
- 仕事であれば、波長が合わない人とでもうまくやっていかなければならない。 (専門学校卒、男性)
- 給料が安いと、このままこの会社に勤めていいのか不安になる。 (高校卒、女性)
- いろいろな意味で自由になるが、同時に大きな責任を負うことがプレッシャーだ。 (大学卒、男性)

(以上、担当 野里)

